

自己点検・評価シート

基準 I 建学の精神と教育の効果

		自己点検・評価のための観点		現状説明	改善方策 (予定含む)	改善時期
基準 I-B 教育の効果	①	教育目的・目標を確立している。	1	学科・専攻課程の教育目的・目標を建学の精神に基づき確立している。	心理・人間関係学科での教育目的と教育目標は、武庫川学院の建学の精神と、武庫川女子大学短期大学部の教育目標に合致するものである。学科の教育目的及び教育目標は、毎年度、学科を構成する全教員によって見直し検証している。	
	③	卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針（三つの方針）を一体的に策定し、公表している。	1	三つの方針を関連付けて一体的に定めている。	心理・人間関係学科の卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針（三つの方針）は、互いに関連させて設定されている。	
			2	三つの方針を組織的議論を重ねて策定している。	三つの方針は、学科の全教員による会議を経て、大学評議会において決議される組織的議論を重ねて策定している。	
			3	三つの方針を踏まえた教育活動を行っている。	三つの方針を踏まえて、各科目の開講学年、開講時期がカリキュラム・ツリー、カリキュラム・マップとして設定され、各科目の科目目的、到達目標が決定されている。	

自己点検・評価シート

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

			自己点検・評価のための観点	現状説明	改善方策 (予定含む)	改善時期
基準Ⅱ-A 教育課程	①	学科・専攻課程ごとの卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を明確に示している。	1	卒業認定・学位授与の方針は、それぞれの学習成果に対応している。	学則に定められた科目ごとの成績評価および単位修得に応じて、卒業認定・学位授与を決定している。	
				①卒業認定・学位授与の方針は、卒業の要件、成績評価の基準、資格取得の要件を明確に示している。	ディプロマ・ポリシーとして、卒業認定・学位授与の方針を明確にするとともに、学則において、卒業の要件、成績評価の基準、資格取得の要件を明確に示している。	
			2	卒業認定・学位授与の方針は、社会的・国際的に通用性がある。	心理・人間関係学科では、社会生活に寄与できる実践的 な力を身につけることを目指し、社会的・国際的に通用性があるディプロマ・ポリシーの検討を行っている。	
			3	卒業認定・学位授与の方針を定期的に点検している。	ディプロマ・ポリシーは、毎年度、学科を構成する全教員によって見直し、検証している。	

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

			自己点検・評価のための観点	現状説明	改善方策 (予定含む)	改善時期
②	学科・専攻課程ごとの教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を明確に示している。	1	教育課程編成・実施の方針は、卒業認定・学位授与の方針に対応している。	カリキュラム・ポリシーは、ディプロマ・ポリシーに対応しているか、毎年度、学科を構成する全教員によって見直し、検証している。		
		2	教育課程編成・実施の方針に従って、教育課程を編成している。	カリキュラム・ポリシーにのっとりカリキュラム編成を、毎年度、学科を構成する全教員によって見直し、検証している。		
		①	短期大学設置基準にのっとり体系的に編成している。	短期大学設置基準にのっとりカリキュラム編成を、毎年度、学科を構成する全教員によって見直し、検証している。		
		②	学習成果に対応した、授業科目を編成している。	学習成果を測定する指標として、GPA、科目ごとの成績評価分布、就職状況、進学状況を含めた進路決定率が上げられるが、ディプロマ・ポリシーに基づく科目における成績評価分布の確認とともに、就職・進学に向けたキャリア形成のための科目を設置している。		
		③	単位の実質化を図り、卒業の要件として学生が修得すべき単位数について、年間又は学期において履修できる単位数の上限を定める努力をしている。	全学で実施されているキャップ制を心理・人間関係学科でも導入している。		
		④	成績評価は学習成果の獲得を短期大学設置基準等にのっとり判定している。	短期大学設置基準等にのっとり各科目の修得単位数を設置し、学生に対して、授業の方法及び内容並びに一年間の授業の計画をあらかじめ明示した上で、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ公表している。		
3	教育課程の見直しを定期的に行っている。	カリキュラムは、毎年度、学科を構成する全教員によって見直し、検証している。令和3年度は、体験的・実践的に学び、実践するための理論と技術を身につけることを目的とした科目の受講者数を増やすことを目指し、レクリエーション関連科目の名称を変更し、より授業内容が理解しやすいように変更を行った。				
⑤	学科・専攻課程ごとの入学受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を明確に示している。	1	入学受入れの方針は学習成果に対応している。	ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるために必要な知識・技能・意欲を備えた人材を求めることを、アドミッション・ポリシーとして公表している。		
		3	入学受入れの方針は、入学前の学習成果の把握・評価を明確に示している。	アドミッション・ポリシーとして、人と関わることに高いモチベーションを有し、かつ心理学を体系的に学ぼうとする人材を求めることを公表している。	入学希望者にアドミッション・ポリシーをより正確に理解してもらうためには、ポリシーを具体化した人物像の提示が必要であると考えられる。	令和5年度まで
		4	入学受入れの方法は、入学受入れの方針に対応している。	積極的に未来を創造し、社会で活躍するために知識を活用し思考する力が求められることから、文系・理系という狭い枠にとらわれず、国語、英語、地理歴史、公民のほか、数学、物理、化学、生物といった科目をできる限り幅広く履修し、確かな基礎知識を備えているかを選抜基準としている。		
		5	高大接続の観点により、多様な選抜についてそれぞれの選考基準を設定して、公正かつ適正に実施している。	入学受入れにおける選考基準は、大学入試センターと協議した上で、毎年度、学科を構成する全教員によって見直し、検証している。	入学受入れの選抜基準について、高等学校関係者の意見は聴取していない。	令和5年度まで

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

			自己点検・評価のための観点	現状説明	改善方策 (予定含む)	改善時期
基準Ⅱ-B 学生支援	①	学習成果の獲得に向けて教育資源を有効に活用している。	1	教員は、学習成果の獲得に向けて責任を果たしている。		
				④授業内容について授業担当者間での意思の疎通、協力・調整を図っている。	オムニバス授業では、前年度の授業計画の段階から授業担当者間で調整を行い、心理学系、社会福祉学系、レクリエーション系などの同系統授業では、授業担当者間で情報共有を行い、授業内容を調整している。	
				⑥学生に対して履修及び卒業に至る指導を行っている。	各学生のGPA、科目ごとの成績評価、就職状況、進学状況を含めた進路決定は、クラス担任が確認することによって把握され、指導が行われている。	
	②	学習成果の獲得に向けて学習支援を組織的に行っている。	3	学習の動機付けに焦点を合わせた学習の方法や科目の選択のためのガイダンス等を行っている。	1年生入学時には、クラス担任、教務委員、学生委員等によるオリエンテーションを実施し、教育目標の達成に向けた科目選択、学習方法の指導を行っている。また、それ以後も、半期ごとに卒業まで、クラス担任による履修オリエンテーションを実施している。	
			4	学生便覧等、学習支援のための印刷物（ウェブサイトを含む）を発行している。	履修便覧は大学HP、Student Guide 2021 -For Academic Studies、Student Guide 2021 -For Campus Life は教務部HPで公開されている。	
			6	学習上の悩みなどの相談にのり、適切な指導助言を行う体制を整備している。	クラス担任とは、メール、LINE、Google Classroomなどの媒介を通じて、あるいは対面で、学習に関する悩みをいつでも相談できる体制をとっている。	

自己点検・評価シート

基準Ⅲ 教育資源と財的資源

			自己点検・評価のための観点	現状説明	改善方策 (予定含む)	改善時期
基準Ⅲ-A 人的資源	②	専任教員は、教育課程編成・実施の方針に基づいて教育研究活動を行っている。	1 専任教員の研究活動（論文発表、学会活動、国際会議出席等、その他）は教育課程編成・実施の方針に基づいて成果をあげている。	令和3年度は、コロナウィルスの影響によって、論文執筆に必要なデータ収集の段階で研究活動も制限されたため、論文発表には至らないものの、リモートで実施された学会への参加等は実施することができた。		